

事業名	母の家2030 -呼吸する屋根・環境シェルターによるシェア型住宅スタイル-	代表団体	芝浦工業大学
		プロジェクトリーダー	秋元 孝之

事業概要

現代社会に広がる分散・散逸を回避し、本来の人間社会への回帰を促す装置として、母性を象徴する意味を込め、2030年の”母の家”を提案します。

I.”個”が集まるライフスタイルから、”共”のつながるライフスタイルへ

近年、“個”への分散・散逸は、エネルギー消費や居住空間における共通の問題であり、少子高齢化社会が進捗するなかで単身世帯数の増加は家族という社会核の崩壊に繋がる重要課題です。その解決の鍵が、share(シェア:共有、共用、分かち合う)にあると考え、本プロジェクトを提起します。

分散・散逸する個が、エネルギー・環境・生活をシェアするライフスタイルにより新たな居住空間を創出します。それは、本来“個”である戸建住宅が“共”に転換することを意味するとともに、本プロジェクトではそれらが集うことで、地域の“共”としてのZEH長屋という新たな住環境への展開を示唆しています。

II.母の家2030

本プロジェクトでは、2030年のシェア型居住スタイルの全容ではなく一部分を切り取った、高齢の夫婦の住居”2030年の母の家”を計画・建設します。

・内部化と外部化のしつらえを変化させる開放的な空間構成

生活領域を明確に区分し、中間領域(縁・玄関)を外部環境に開かれた半内部空間とすることで、快適な住環境をつくりだします。

・アクティブ技術とパッシブ技術を多層状に重ねた”呼吸する屋根”

本プロジェクトでは、屋根に着目して「多層環境装置」と位置付け、太陽熱集熱・発電、昼光、温度差による空気の流れを積極的に利用します。

・高性能の居住設備を凝縮した”環境シェルター”

個人のスペースである寝室や生活に必要な台所・水廻りなどは必要最小限の空間として高气密・高断熱かつ高性能の設備をユニット化した”環境シェルター”を設置します。災害時でも、シェルター内で安全に過ごせます。

III.ユニット化とシステム化によって、国外住宅市場の開拓を目指す

地産地消型の「多層環境装置」と、パッケージ化された「環境シェルター」を開発し、アジアなどの国外市場への開拓を目指します。

提案住宅のイメージ



実施体制

【代表団体】

芝浦工業大学

事務管理責任者

【参加団体】

- パナソニック株式会社
- 銘建工業株式会社
- 旭木材工業株式会社
- 丸宇住宅資材株式会社
- JFEロックファイバー株式会社
- 株式会社アーキテック・コンサルティング
- サイバーステーション株式会社
- 株式会社フルハウス・イグゼ
- 東京ガス株式会社

【協力団体】

- 旭硝子株式会社
- 越井木材工業株式会社